

価値創造アプローチ

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

And Gameの実践

《FDKグループ 戦略Framework》 10年の計

《OUTPUT》

《OUTCOME》

経営理念

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために
P.1

Vision

Smart Energy
Partner

あるべき姿

オファリング

信頼性 安全性 環境保全 + α

電気エネルギーの
より広範な活用

多様化する
お客様のご要望へ対応

持続可能な社会への貢献

中期 事業計画

R2
2023-25

P.17

R3
2026-28

R1
2020-22

電池事業

電子事業

ニッケル
水素電池

アルカリ
乾電池

リチウム電池

電子製品

各種
製造設備

《資本の充実》 P.13、14

知的資本

製造資本

人的資本

財務資本

社会・関係資本

自然資本

FDK 企業行動指針

ストーリー // 中期事業計画とマテリアリティ

中期事業計画「R2」の進捗とサステナビリティへの取り組み

FDKグループは、さらなる経営体質強化と企業価値の向上を図り、様々なステークホルダーの方々の期待にお応えすべく、2029年度のあるべき姿として「10年の計」を策定し、このあるべき姿の実現に向け2023年4月に中期事業計画「R2」（2023～2025年度）を作成しました。

R2初年度の2023年度は電子事業のモビリティ製品への搭載が期待される「Bluetooth® Low Energyモジュール」の製品化、リサイクル性の高いニッケル水素電池での車載アクセサリ市場向けおよび電源バックアップ市場向けの開発推進など、既存事業の成長・強化に取り組んでまいりました。

新規ビジネスでは中期事業計画「R3」以降を見据え、鉛などの有害物を使用せず環境負荷が低いニッケル亜鉛電

池のサンプル出荷拡大など実用化に向けた取り組みを推し進めました。

また、ニッケル水素電池の主要原材料である水素吸蔵合金の安定確保や、今後の水素社会に対応し、水素貯蔵分野で世界に誇れるグループに成長させるため、BAOTOU FDK CO., LTD. を新たに連結子会社に加えました。

加えて、環境経営やカーボンニュートラルを念頭に置いた全社DXプロジェクトの発足、健康で働き続けられる職場づくりを目指した健康経営をスタートし、それぞれ「DX認定事業者」の認証取得、「健康経営優良法人2024」の認定など持続的な企業価値向上への取り組みを推進しました。

中期事業計画「R2」の三本柱

1. 主力ビジネスの利益ある成長の加速

- 伸びる市場・付加価値の高い市場への注力
- 構造改革による事業規模の適正化

2. 新規ビジネスの始動と開拓

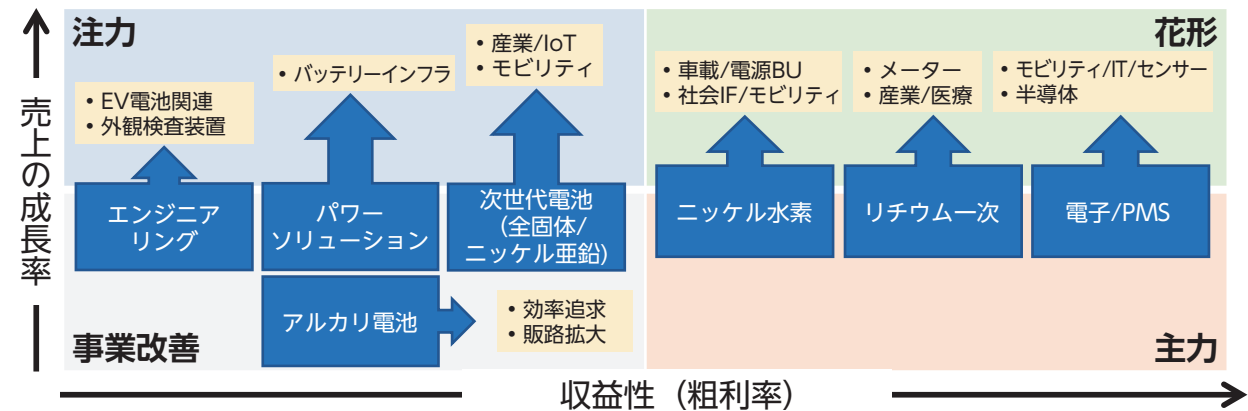
- 次世代電池ビジネスおよび、ソリューションビジネスの本格稼働
- 次々世代電池・ソリューションビジネスの要素開発

3. 認め合い・高め合う文化の醸成

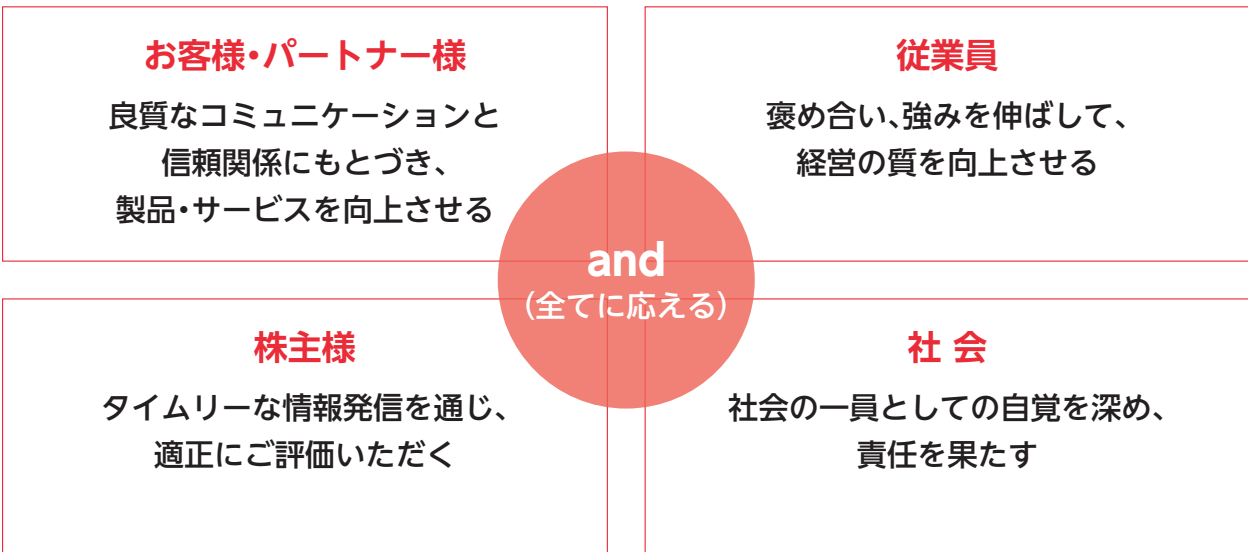
- 各自が能力を発揮できる仕組みの構築
- ガバナンスを含む経営の質の向上

主力ビジネスの利益ある成長の加速・新規ビジネスの始動と開拓(柱1・2)

- 既存三大事業を成長させることで、全社の収益性をあげる
- 次世代電池・パワーソリューション事業を始動し、事業としての存在感を高める
- R1で低調だったエンジニアリングは、新規事業開拓で成長の礎を築き、アルカリ電池は、構造改革で収益性を改善する



認め合い・高め合う文化の醸成(柱3)



ストーリー

中期事業計画とマテリアリティ

当社グループは、当社グループの経営理念である「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」および当社グループのVisionである「FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します」を実現していくために、新たに当社グループの5つのマテリアリティを特定しました。

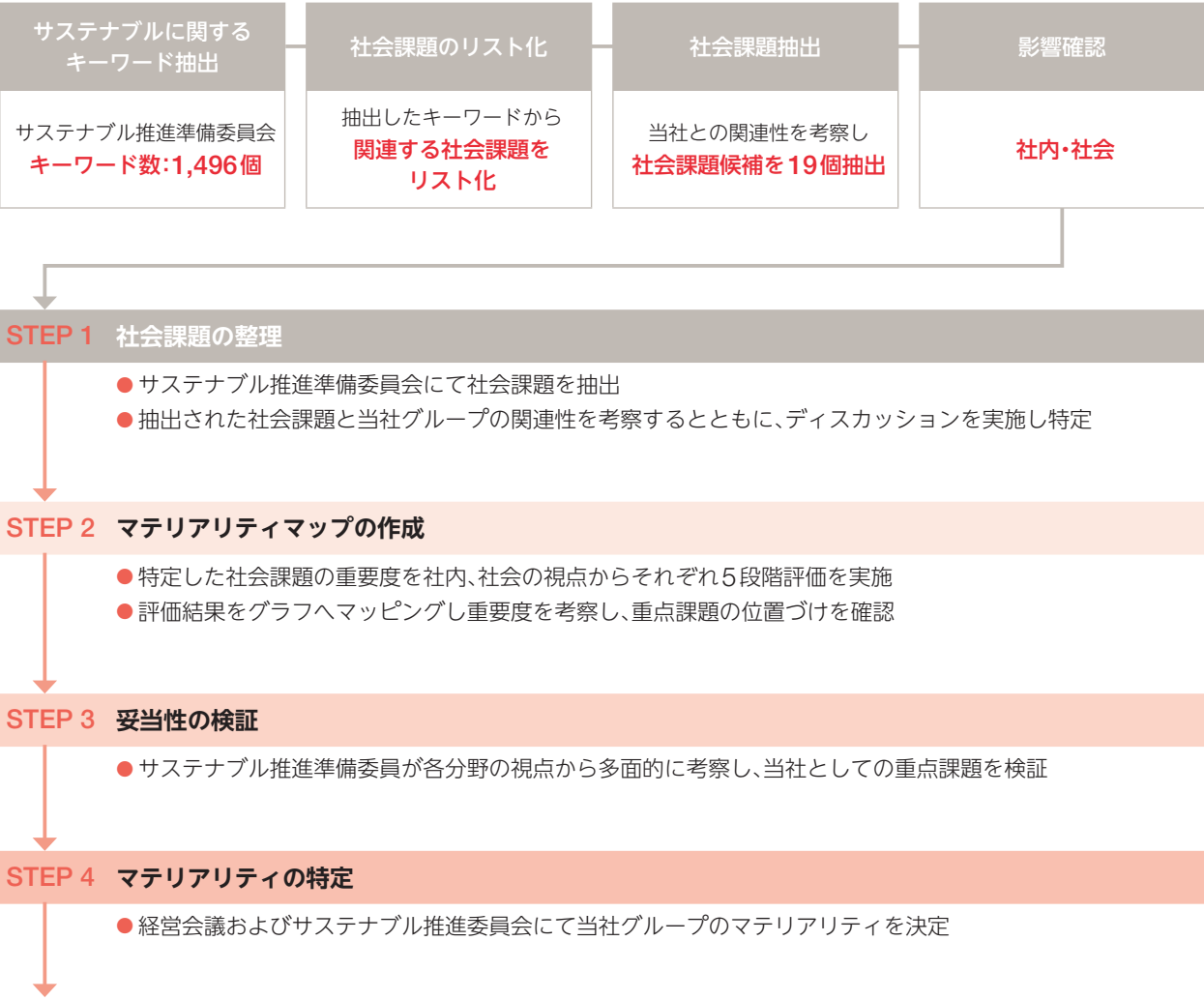
当社グループは、事業活動を通じて特定した5つのマテリアリティを実現し、社会の持続的な発展とサステナブルな企業価値向上を目指しています。

マテリアリティの特定プロセス

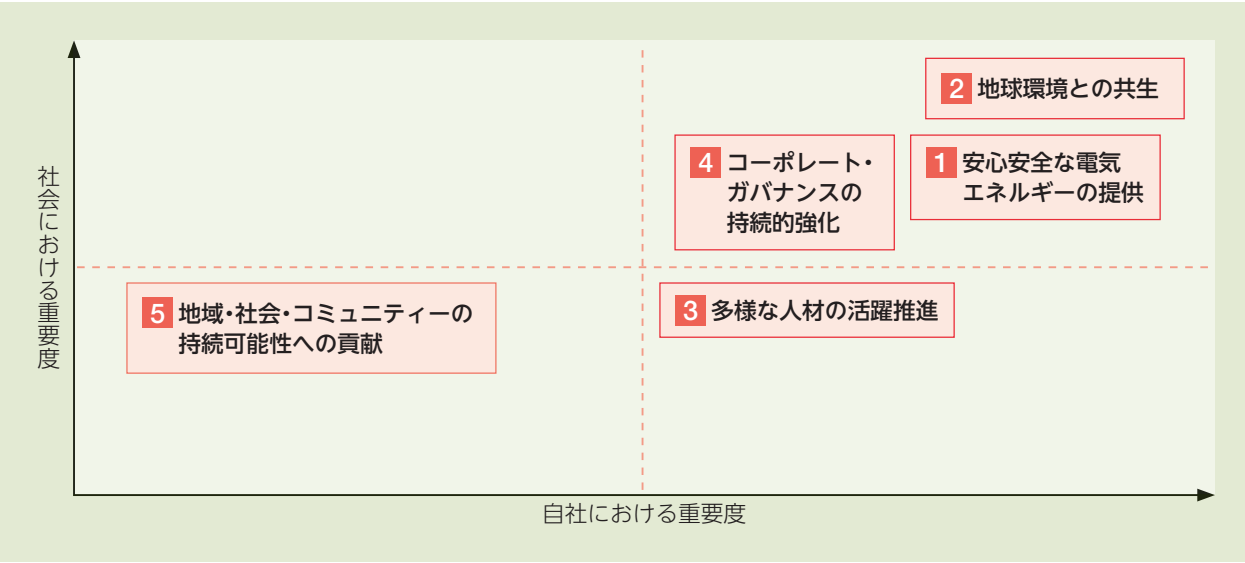
当社グループのマテリアリティの特定にあたっては、社内に「サステナブル推進準備委員会」を立ち上げ、委員会メンバーによる社会課題の抽出を行ない、その後、当社グループおよびステークホルダーへの重要度の観点から各マテリアリティ候補の評価を行なうとともに、経営会議等においてディスカッションを踏まえた上で5つのマテリアリティを特定しました。

2022年度からは各マテリアリティにおけるKPIを設定し、それぞれの事業部門等で取り組みを進めています。

社会問題の整理フロー



当社グループの5つのマテリアリティ(重点課題)



マテリアリティ	当社にとってのマテリアリティの施策	ESG区分	関連するSDGs
1 安心安全な電気エネルギーの提供	● サステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供する	E・S	7 2030年までに、再生可能エネルギーを普及させること、エネルギーの効率的な消費を促進すること、世界規模にエネルギーのアクセスを拡大すること、エネルギーの安定供給を確保すること、エネルギーの持続可能な開発を促進すること
2 地球環境との共生	● 循環型社会の推進 ● 気候変動への対応 ● 地球環境への貢献	E	7 2030年までに、再生可能エネルギーを普及させること、エネルギーの効率的な消費を促進すること、世界規模にエネルギーのアクセスを拡大すること、エネルギーの安定供給を確保すること、エネルギーの持続可能な開発を促進すること
3 多様な人材の活躍推進	● 従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくり ● 健康で働き続けられる環境づくり	S	3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を促進しよう、8 働きがいも、経済成長も、10 人や国の不平等をなくそう
4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化	● ステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化 ● リスクコンプライアンス体制の基盤強化 ● 全社内統制の強化 ● 法令および社会規範の遵守と高い倫理観を持った行動の徹底	G	10 人や国の不平等をなくそう
5 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献	● 地域社会とつながり、笑顔溢れる世の中の実現	S	3 すべての人に健康と福祉を、14 海の豊かさを守ろう

ストーリー // 事業戦略

電池事業

⚡ ニッケル水素電池

成長戦略

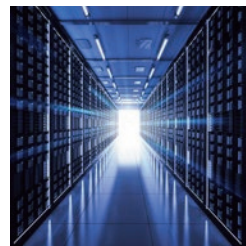
2025年の売上高230億円、営業利益率5%以上の確保に向け、ビジネスモデルの変革を加速しています。当社の培ってきた技術力で、温度範囲、出力、寿命、リサイクルに特長を有するターゲット市場向け新製品の開発を進め、高付加価値モデル占有率为60%から70%に拡大することを目指してまいります。工業用途の売上高の拡大と、高騰材料の使用量削減、製造工程の自動化促進、加工費低減、輸送費等でコスト競争力を強化し、ビジネスの成長に繋げてまいります。



注力市場



車載市場



電源バックアップ市場

▶ 取得済み特許件数

351件

⚡ アルカリ電池

成長戦略

国内市場において、「信頼の日本製」「環境対応」「防災備蓄」を切り口とした販売戦略を主軸に、ドラッグストア、ホームセンター、スーパーマーケット、通販系販売における深耕開拓に加え、伸長しているプライベートブランド分野での新規獲得を目指してまいります。

製品においては、既存技術、製造技術のブラッシュアップとSDGs達成への貢献を訴求した新規技術の開発を進めてまいります。



注力市場



ドラッグストア/ホームセンター/
スーパーマーケット市場



通販/WEB市場

▶ 取得済み特許件数

137件

⚡ リチウム電池

成長戦略

主力ビジネスであるスマートメータ関連市場のさらなる拡大、産業市場(DX/IoT)、医療市場の新規市場開拓によりワールドワイドでのシェア拡大を目指してまいります。当社が長年培ってきた技術で高い安全性と長寿命を有する新製品を開発することにより、一層魅力あるリチウム電池を市場へ提供することでビジネスの成長と、社会の発展に貢献し続けてまいります。



注力市場



スマートメータ関連市場



産業・医療市場

▶ 取得済み特許件数

112件

⚡ エンジニアリング

成長戦略

株式会社FDKエンジニアリングは、マーケティングを強化し新規顧客開拓を拡大していくことで事業価値向上を図ってまいります。

半世紀にわたる部品組立技術と構想提案力に加え、AIを活用した画像検査装置などソフトウェア開発強化により、お客様のニーズに合わせ、最適な設備構成を提案していきます。自動車・電池・電気電子・医療関連分野等、幅広い分野の設備を手掛け、信頼いただける設備メーカーへ成長してまいります。



注力市場



車載向け設備市場

▶ 取得済み特許件数

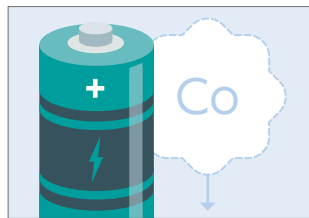
16件

電池事業におけるサステナビリティへの取り組み

ニッケル水素電池事業における取り組み 資源効率向上に寄与する製品設計・開発

当社家電用ニッケル水素電池において、希少性の高い金属の一種であるコバルトの使用量の削減に向けた製品開発を進めてまいりました。お客様との調整や製品設計の改善により、製品性能をご承認をいただくことができ、2024年9月より量産を開始しています。

ニッケル水素電池の累計生産数は2023年に50億個を達成しました。今後も資源効率向上に寄与する魅力ある新製品を提供し、累計生産数60億個、70億個に向けた製品開発・生産に取り組んでまいります。



アルカリ電池事業における取り組み 製品における減/脱プラスチック化の推進

当社のアルカリ乾電池の一部製品で、100%紙素材で包装した「サスティナパック」を市場投入し、減/脱プラスチック化を推進しています。さらに、「森林認証紙」を使用した環境配慮型製品を生産しております。

アルカリ乾電池の生産拠点である鷺津工場（静岡県）は、グリーン購入法適合製品の生産をはじめ、環境にやさしい鉄道輸送を推進し、エコレールマークの認定を受けています。



リチウム電池事業における取り組み 自己放電が少なく長期保管や長期使用に優れた電池づくり

当社のリチウム電池は最適な材料設計とレーザー封口で自己放電率が0.5%/年（室温）と非常に低く、10年保存しても95%以上の容量を保持することができ、長寿命・長期信頼性のある電池です。

製品によっては幅広い温度範囲で使用でき屋内・屋外問わず機器の長期運用をサポートします。

また、当社リチウム電池はRoHS指令で規制されている有害物質を使用しておらず、環境にやさしい電池です。



(株)FDK エンジニアリングにおける取り組み 地域コミュニティとの協働

株式会社FDK エンジニアリングでは、地域社会の一員として様々なコミュニティと協働し、繋がる笑顔溢れる社会貢献活動を推進しています。

2023年度には地域の中学校や特別支援学校の職業訓練実習の受け入れを積極的に行ない、当社のものづくりの現場を体験いただく機会を提供しました。今後も学校では学ぶことのできない実体験を通して、ものづくりへの興味・関心を向上させ、働く楽しさを実感していただける機会を提供してまいります。



電子事業

成長戦略

「事業価値向上・ビジネスモデルの転換」をキーワードとし、差別化・技術力を活かし、お客様と連携した製品開発、拡販を図っています。

半導体装置用途向けスイッチング電源やモビリティ用途向け各種モジュール、全固体電池と連携した新規ビジネス獲得などに注力し、特に新製品となるBluetooth® Low Energy モジュールの新規顧客開拓、商社と連携したビジネス獲得を目指してまいります。

注力市場



半導体・液晶市場



モビリティ市場

▶ 取得済み特許件数

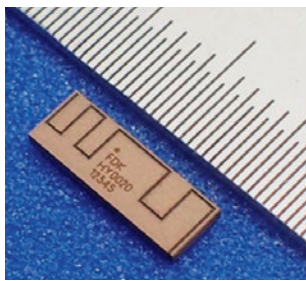
170件

サステナビリティへの取り組み

世界最小「Bluetooth® Low Energy モジュール」を製品化

電子事業では環境問題に取り組み、小型製品を開発することで省資源化を進め、環境負荷の低減に貢献しています。

IoT機器などの無線通信に用いられるアンテナ一体型のモジュールを3.5 × 10 × 1mmの超小型サイズで実現しました。機器の小型軽量化による省資源や低消費電力通信で省エネに寄与する製品であり、ウェアラブル、ヘルスケア、トラッキングをはじめとするセンサを使用した見守りや作業の効率化など広い範囲での活用が期待できます。



世界最小：2024年5月27日現在。当社調べ。
アンテナ付きシールドタイプ32KHz/32MHz 水晶振動子内蔵モジュール。

ストーリー // サステナビリティマネジメント

FDKグループにとってのサステナビリティ活動は、経営理念である「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」のもと、ステークホルダー*と協働し、すべての事業活動を通じて様々な社会問題を解決することで、持続可能な社会の実現に貢献していくことです。

* FDKグループのステークホルダー：FDKグループは、「お客様」「お取引先様」「株主・投資家」「社員」「国際社会・地域社会」をステークホルダーとしています。また、「政府」「NPO」「NGO」「学会」「業界団体」「国際機関」なども「国際社会・地域社会」の中の重要なステークホルダーと考えています。

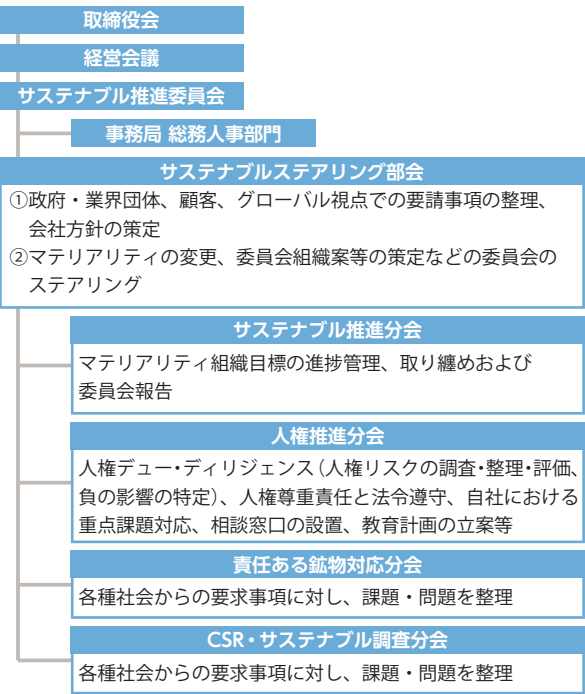
サステナビリティ推進体制

FDKグループは、サステナビリティ活動の推進にあたり、グループの横断的なSDGs実現や環境・社会・ガバナンス分野における中長期的な課題を議論・決定・評価するため、サステナブル推進委員会を設置しています。サステナブル推進委員会は、代表取締役社長を委員長とし、情報発信、新たな社会貢献事例や持続可能な社会とビジネスの在り方などについて定期的なレビューを行なっています。

委員会の構成

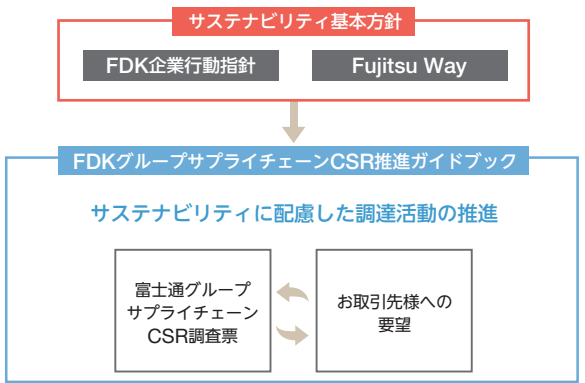
委員長	： 代表取締役社長
副委員長	： コーポレート部門の取締役執行役員
推進委員	： 本部長、事業部長、法務・知的財産部長、監査部長
事務局	： 総務人事部

推進体制



サステナビリティに配慮した調達活動について

FDKグループでは、「FDKグループサステナビリティ基本方針」「FDK企業行動指針」および「Fujitsu Way」にもとづき、人権尊重、安全衛生、地球環境保全、法令遵守、公正取引、企業倫理等に配慮した調達活動を推進していくための指針として「FDKグループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」を作成し、ホームページにて公開しています。本指針を遵守した調達活動を実践するとともに、サプライチェーンを構成するお取引先様にも本指針の遵守をお願いしています。



責任ある鉱物調達の方針について

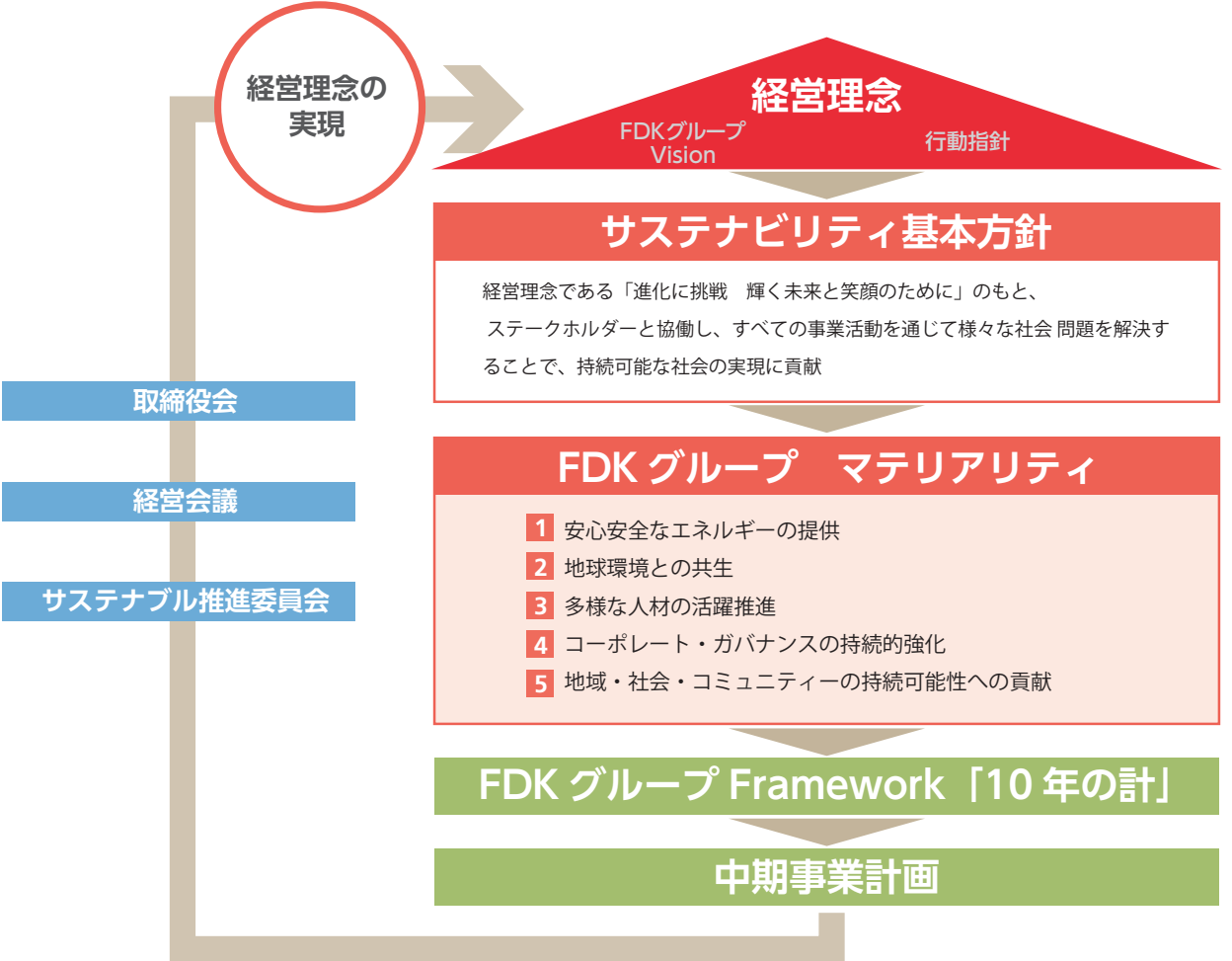
FDKグループは、「富士通グループ責任ある鉱物調達対応方針」に従い、鉱物問題に係る企業の責任を重要なCSR課題の一つとして捉え、紛争を助長している、あるいは強制労働や人権侵害と関連する高リスク鉱物として「タンタル、錫、金、タングステンおよびコバルト」を特定し、問題のある精錬所等の業者をサプライチェーンから排除していくことを方針としています。FDKグループは、サプライチェーンの透明性の確保と責任ある鉱物調達に取り組んでまいります。

FDKグループのサステナビリティ基本方針にもとづくマテリアリティの位置づけ

FDKグループでは、サステナビリティ基本方針にもとづき、5つのマテリアリティを設定しています。これらのマテリアリティは、当社グループおよびステークホルダーへの重要度の観点から優先度を検討して設定しており、マテリアリティに関連するSDGsの解決に向けてサステナビ

リティ経営を推進しています。5つのマテリアリティの重点施策の実践を通じて、すべてのステークホルダーに価値を提供するとともに、FDKグループの経営理念の実現に取り組んでいます。

FDKグループ サステナビリティ経営のあり方



ストーリー // 5つの重点課題

FDKグループは、マテリアリティにもとづく5つの重点課題を制定し、サステナビリティ経営を推進しています。

この重点課題は、FDKグループの事業を通じての社会貢献と、RBA^{※1}等において求められる事項に積極的に取り組み、グローバル企業として責任ある経営を推進することを目的とし、次のとおり取り組んでいます。

重点課題/マテリアリティ 重点テーマ	中長期目標	目標	2023年度実績
1 安心安全な電気エネルギーの提供 サステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供する	■様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供 【具体的なシーン】 1. Smart Infrastructure 2. Smart Home & Office 3. Smart Retail Store 4. Smart Factory & Mobility	1. Smart Infrastructure 社会インフラ用途向け製品の開発、性能向上を目指した新製品開発 2. Smart Home & Office 家電用途向け製品の開発、性能向上を目指した新製品開発、性能評価の実施 3. Smart Retail Store ストレージ・電源バックアップ用途向け製品の量産開始、性能向上を目指した新製品開発 4. Smart Factory & Mobility 車載アクセサリ用途向け製品の量産および新製品開発	1. Smart Infrastructure ニッケル水素電池におけるサンプル出荷、リチウム電池における新製品開発の推進、次世代電池における社内性能評価を実施しました 2. Smart Home & Office ニッケル水素電池におけるサンプル出荷、アルカリ電池における新製品開発の推進、電子製品における新製品の量産開始、次世代電池における性能評価を実施しました 3. Smart Retail Store ニッケル水素電池、リチウム電池および次世代電池における新製品開発を推進しました 4. Smart Factory & Mobility ニッケル水素電池における量産開始および新製品開発、電子製品および次世代電池における新製品開発を推進しました
2 地球環境との共生 気候変動への対応	■カーボンニュートラルへの貢献 1. 再生可能エネルギー導入:2030年までに100%以上 2. Scope 1～Scope 3の達成排出量の統合管理 3. 省エネ活動 1%削減/年＝2029年度で7%削減	1. 2023年度再生可能エネルギー導入率 12% 2. Scope 3 排出量管理のためのサプライヤーからの情報収集および体制構築を実施 3. 省エネルギー化の施策を抽出し目標達成に向けて実行 老朽化した設備の計画的な更新	1. 左記2023年度分の再生可能エネルギー導入率(12.7%)を達成しました 2. Scope 3の排出量管理方法について業界標準的な集計方法を検討しました 3. 各拠点にて電力量削減の目標設定を行ない、活動を推進しています
持続的社会の実現・発展への貢献	■ステークホルダーとの協働 1. サプライチェーンとの協働推進 2. 社内体制の再構築 3. 国内外の外部機関との連携推進 4. 国際標準規格の提案 5. 含有化学物質調査の100%の維持継続 6. 責任ある鉱物調達調査の100%維持継続	1. サプライヤー(取引先を含む)に対する富士通グループRBA調査の継続実施 2. RBA、CDP、責任ある鉱物調達の要求事項に関連する情報の整理 3. RBA、CDP(※2)、責任ある鉱物対応における要求事項について整理し、社内に向けたフィードバック、社外への回答手順を確立 4. 電池工業会を通じた国際標準規格への貢献 5. 含有化学物質調査の100%の維持継続 6. 責任ある鉱物調達調査の100%維持継続	1. サプライヤーへの富士通グループRBA調査結果を実施、結果のフィードバックを実施しました 2. 各種アンケート調査を実施し、要求事項の抽出・整理を行ないました 3. RBA、CDP、責任ある鉱物対応について社内ヒアリングを実施、当社の未達項目についての情報収集を行ないました 4. 活動継続しました 5. 活動継続しました 6. 活動継続しました
循環型社会の推進	■資源の有効活用～様々な観点での資源有効活用～ ※効率・長寿命・低減・削減・リサイクル 1. 省資源化に寄与する製品の設計・開発 2. 資源効率向上に寄与する製品の設計・開発	1. 省資源化に寄与する製品の設計・開発 省資源化製品の設計開発、調達材料と廃棄物の削減、レアメタル使用量の削減 2. 資源効率向上に寄与する製品の設計・開発 材料使用量の削減、減プラ・バイオマスフィルムの検討、材料利用率の改善	1. 省資源化に寄与する製品の設計・開発 ニッケル水素電池、アルカリ電池、リチウム電池における省資源化製品の設計開発、電子事業における調達材料と廃棄物の削減、次世代電池開発におけるレアメタル使用量の削減を推進しました 2. 資源効率向上に寄与する製品の設計・開発 ニッケル水素電池における材料使用量の削減、アルカリ電池における減プラ・バイオマスフィルムの検討、次世代電池における材料利用率の改善を実施しました
3 多様な人材の活躍推進 全従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくり	■人材投資(教育)の充実	1. 能力開発 ・研修内容のブラッシュアップ・能力開発 ・若手社員の育成強化 2. タレントマネジメント(人材育成) ・次世代リーダーの育成強化 ・グローバル人材育成に向けた語学教育立案・実施 3. 学習機会の提供 ・eラーニングおよび通信教育、道場の活用促進 ・自ら学ぶ文化の醸成、従業員のスキルおよびモチベーション向上	1. 能力開発 ・全社教育計画を刷新し、幹部社員に向けた集合研修を計画どおり実施しました ・中堅社員が対象の研修において業務適性診断を追加し業務適正化を促進、業務へのモチベーション向上を目指した施策を実施しました 2. タレントマネジメント(人材育成) ・異文化理解研修のさらなる充実に向けた研修内容のブラッシュアップを行ないました ・語学留学制度において新たに1名が留学し、異文化理解、コミュニケーション能力の向上を図りました 3. 学習機会の提供 ・自己啓発の機会促進の観点から、eラーニング受講費用における補助金について見直しを実施しました
	■ダイバーシティ(インクルージョン)の推進 1. 障がい者雇用の継続・支援 2. ファシリティ整備(ユニバーサルデザイン化の拡張)	1. 障がい者雇用活動と受け入れ部門の知識と理解度の向上 2. 人権方針の策定	1. ・障がい者が活躍できる業務に関するヒアリングを実施し、受け入れ部門の理解度向上・入社後のミスマッチ解消に努め、雇用の定着を図りました ・障がい者雇用率2.37% 2. 人権方針を策定し、当社ホームページに掲載しました
	■キャリア形成・能力開発支援 1. 女性管理職比率の向上 ※2025年度に21年度比150% 2. セカンドキャリア支援	1. 国際女性デーセミナーの実施 2. シニア社員向けキャリアデザイン研修の実施	1. ワークライフバランス、多様性の受け入れなどの観点からジェンダー平等について考える社内向けセミナーを実施しました 2. 55歳以上のシニア社員を対象にキャリアデザイン研修を実施しました

※1 RBA(レスポンシブル・ビジネス・アライアンス): 製造業のサプライチェーンにおいて、労働環境が安全であること、そして労働者が敬意と尊厳を持って扱われること、さらに製造プロセスや調達と与える環境負荷に対して、企業が責任を持っていることを確実にするための基準を規定。

※2 CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト): 英国の慈善団体が管理するNGO。投資家、企業、国家、地域、都市が自らの環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営。

ストーリー

5つの重点課題

重点課題/マテリアリティ 重点テーマ	中長期目標	目標	2023年度実績
3 多様な人材の活躍推進 健康で働き続けられる職場づくり	■安全で健康的な職場の提供～快適な職場づくりの推進～ 1. 労働安全衛生リスク低減の徹底 2. 労働安全衛生教育の充実	1. 労働安全衛生リスク低減活動の実施 2. 安全衛生教育訓練計画の見直し	1. 湖西・鷺津工場において、安全衛生・環境マネジメントシステムのプロセス統合による効率化を行ない、マニュアルや文書を統合しました 2. 安全衛生に関するパトロールを全工場にて実施し、工場間の相互交流を通じた情報共有を行ないました 「安全第一文化の醸成と定着」をテーマに全従業員に対して、eラーニングを実施しました
	■健康経営の実現 1. 健康経営優良法人取得 2. ワークライフバランスの充実 ・長時間労働対策 ・有給取得率の向上(取得率70%) ・育児・介護との両立支援(男性取得率30%) 3. 社員健康増進 ・定期健康診断高リスク者の低減／社員のコミュニケーション向上	1. 健康経営優良法人への認定 2. 有給休暇取得状況の見える化、ストレスチェックの全社実施、育児・介護との両立支援 3. 健康教育の充実	1. 「健康経営優良法人2024」に認定されました 2. 有給休暇の取得状況、長時間残業の見える化、全社ストレスチェックを実施しました 子の出生時に新たに積立休暇を利用できるように制度の見直しを図りました 3. 健康に関する理解促進のため、「健康たより」を年間4回発行しました
4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／ リスクコンプライアンスの高度化 ステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化	■当社グループコーポレートガバナンス・ポリシーの策定	コーポレートガバナンス・ポリシーの策定	・社内規定や外部開示資料におけるコーポレートガバナンス・ポリシーに関する記載事項を整理の上、当社におけるコーポレートガバナンス・ポリシーの骨子を策定しました
	■ステークホルダーへのアカウンタビリティの充実	1. ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応 2. 株主、投資家：株主総会、ホームページ上の情報開示など対話の実行に向けた検討	1. 外部からの調査および問合せに以下のとおり対応しました 取引先調査：45件 メディア・投資家・株主：41件 メディア等調査・アンケート：24件 2. 株主、投資家に向けた適切な情報開示を実施しました 効果的なプレスリリースのためのデータ収集やリリース配信先の最適化を実施しました 決算説明資料について他社との内容比較の上、刷新しました
	■リスクマネジメントの経営プロセスへのさらなる深化	1. リスクコンプライアンス委員会の運用充実 2. 全社BCMマネジメントサイクルの確立	1. 各部門において、潜在リスクを抽出し重要リスクを特定しました 富士通グループ潜在リスクアセスメントを実施し、当社の重要リスクの特定と対策を整理・実施しました 2. 全社BCM年間計画を策定し、各拠点でDRP・BCMシミュレーション訓練を実施し、課題を整理しました
	■内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化	1. FDKグループに対する内部監査体制強化 2. 不正防止および不正の早期発見、早期是正による再発防止	1. 国内および海外拠点に関する内部統制監査等を実施しました 海外拠点の情報セキュリティに関する調査と関連部門へ運用面の各種改善点を確認しました 富士通株式会社内部統制関連部門と意見・情報交換等による取り組みを強化しました 監査法人と連携し、海外グループ会社の往査実施および現地監査法人へのヒアリングによるモニタリングを強化しました 2. 内部統制不備事案の継続モニタリング・是正対策評価を実施しました 海外拠点への海外安全保障輸出管理に関する監査を実施、運用面での各種改善点を確認しました 国内各部門の業務プロセス監査、有効性の確認を実施しました
5 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献 地域社会と繋がりが笑顔溢れる世の中の実現	■法令・社会規範の監視体制の維持・継続的な教育	1. 内部通報窓口の活用促進および通報案件に対する迅速な対応 2. コンプライアンス教育の継続的な実施	1. 内部通報受付実績：4件 2. eラーニングを実施しました(受講率100%)
	■ツナガル情報の発信 1. 社会とのコミュニケーション 2. 安心・安全な暮らしのサポート	防災に関する情報発信	・毎週月曜日にFMサルースのソナエルRadioにて防災に関する情報を発信しました ・SNSにて防災啓発に関する動画を公開しました ・日本気象協会「知る防災」と連動した防災啓発活動へ協賛しました
	■未来にツナゲル機会の提供 1. 学ぶ機会の提供 2. 新しい価値を創造する機会の提供	太陽とツナガル電池の音コンサートへの協賛	・コンサートホールなどで年間18回の公演を実施しました
	■笑顔をつなぐ貢献活動の推進 地域や社会への貢献活動	1. 地域社会とツナガル推進活動 2. 地域美化にツナガル推進活動 3. エコにツナガル推進活動 4. 命をつなぐ推進活動	1. 地域交通安全活動へ参加、授産施設からの物品購入の促進を行ないました 2. 工場周辺および施設の清掃活動、地域の花壇整備を行ないました 3. 使用済切手およびペットボトルキャップの収集、学校への寄贈を行ないました 4. フードバンクへの防災備蓄品の提供、献血活動、赤い羽根・緑の羽根の募金運動の推進を行ないました